

		赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
		発行人/会長 吉岡博之	
		編集人/小野 章	
		〒625-0062 舞鶴市森973番地の1	
		FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick7388@yahoo.co.jp	
赤煉瓦倶楽部舞鶴			
会報120号 令和4年(2022年)10月17日			
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ		http://www.redbrick.jp/	

目 次

1. 舞鶴線(東舞鶴駅~福知山駅間) 鉄道施設調査について(1)	4. まいづる海軍がっこうぐらし! 第4回
2. 舞鶴線・小浜線を振り返る写真展のご案内	編集後記
3. 図書のご紹介	

1. 舞鶴線(東舞鶴駅~福知山駅間) 鉄道施設調査について(1)	吉岡博之(会長・理事)
----------------------------------	-------------

1 はじめに

今年(明治5(1872)年)10月14日に東京の新橋と横浜間にわが国初の鉄道が開通して150年にあたります。舞鶴においては、新舞鶴駅(現東舞鶴駅)~敦賀駅間を結ぶ小浜線が大正11(1922)年12月20日に開通して100年という記念の年であり、さらに、来たる令和6(2024)年には、明治37(1904)年11月3日に新舞鶴(現東舞鶴)駅~福知山駅間の鉄道

「舞鶴線」(現在、綾部駅~福知山駅間は山陰本線)が開通して120年となる節目の年を迎えます。

赤煉瓦倶楽部舞鶴では、この機にあたり、舞鶴線や小浜線の将来について考えるために、先人の業績といえる舞鶴線の各駅・橋梁・隧道(トンネル)などを改めて確認する現地調査を実施することにしました。

2 調査日程

第1回調査 9月17日(土) 9時~16時
 調査対象 東舞鶴駅~西舞鶴駅~綾部市境



森・白鳥川橋梁



清道トンネル



天台川橋梁



天台川橋梁



第六伊佐津川橋梁



米田川橋梁



南田辺の橋梁



円満寺の橋梁



京田の橋梁



真倉の踏切



第四伊佐津川橋梁



第三伊佐津川橋梁

線路脇にはクズなどの雑草が茂り、小規模の橋梁は全く煉瓦が見えないものもあります。しかし、橋脚はいずれも約120年が経過していると思えないほどし

っかりとしており、また、煉瓦上部をコンクリートでかさ上げしてあるものも多く見受けられました。

- 第2回 10月予定 調査対象 綾部市境～綾部駅
- 第3回 11月予定 調査対象 綾部駅～福知山駅
- 第4回 12月予定 調査対象 中舞鶴線、海舞鶴線、新舞鶴港(貨)

3 調査方法 現況確認、写真記録、資料調査など
(ただし、鉄道敷地に立ち入らないこと)

4 成果発表 写真、関係資料の展示会などを開催する

5 舞鶴線の歴史(その1)

明治20年代から30年代にかけて、日本は大陸の権益をめぐり大国ロシアと緊張状態にあり、日本海側唯一の海軍の拠点となる軍港を舞鶴に置くことに決め、明治34(1901)年10月1日に海軍舞鶴鎮守府を開庁。鎮守府施設に京阪神から人と物資を大量輸送するための鉄道の整備はいよいよ急務となった。大阪財界が設立した阪鶴鉄道会社による大阪～篠山～福知山～舞鶴間の「阪鶴線」と、京都の有志が設立した京都鉄道会社による京都～園部～綾部～舞鶴間の「京鶴線」が競合し、政府は京都府北垣國道知事が推す京鶴線に決定した。

しかし、日露戦争が目前に迫っても工事は園部までにとどまっていた。ここにいたって政府はその緊

急性から国家事業として福知山まで完成していた阪鶴線を舞鶴に延伸することとし、明治35年11月福知山に鉄道作業局を設置して福知山～新舞鶴～余部間の鉄道敷設工事を発注した。新たに設けられた福知山停車場は阪鶴鉄道の福知山停車場から約1キロ離れた場所に設けられ、その間は阪鶴鉄道会社が延伸を負担した。

同37年2月の日露開戦以後の工事は、昼間だけでなく夜もかがり火と松明の明かりの中で夜を徹して工事が進められ、ついに同37(1904)年11月3日、福知山駅～新舞鶴駅間39.1kmが開通した。運営については国から貸与を受けた阪鶴鉄道が担った。(つづく)

※一ロメモ/明治期の鉄道は距離を哩(マイル)で表記。トンネルや橋梁の長さは呎(フィート)または鎖で表記した。

【1哩(マイル:1609.3m) = 80鎖(チェーン:20.1m)、1鎖=100節(リンク:0.2m)、1呎(フィート=0.305m)】



初代新舞鶴駅(現在は東舞鶴駅)



初代舞鶴駅(現在の西舞鶴駅)

2. 舞鶴線・小浜線を振り返る写真展のご案内

嵯峨根八郎(理事)

下記の通り開催しますので、お誘いあわせご来訪いただきますようご案内申し上げます。

- 1 展名「懐かしい写真でたどる舞鶴の鉄道の歩み」
- 2 期間 令和4年11月4日(金)~10日(木)
- 3 会場 アートスペース973(府道白鳥通り大森神社参道入口)
- 4 展示内容

明治37年(118年前)に舞鶴線と舞鶴港線(軍用線)開通。その後中舞鶴線(軍用線)や小浜線(12月で開通百年)が開通し、戦前の軍事輸送中心から戦後の引き揚げ、地元の貿易、工業、観光などの発展に大きく関わってきた鉄道の歩みを、多数の貴重な写真他の資料で紹介いたします。10両編成や機関車連結もザラだった戦後の鉄道風景と現在を比べ再発見しましょう!



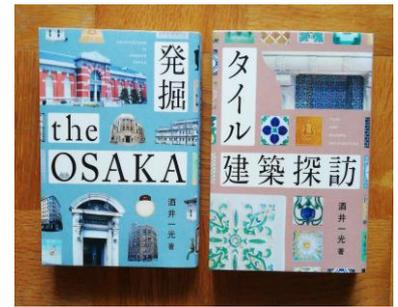
高浜町の青戸付近を走る急行大社



絵はがき:「裏日本鉄道全通新舞鶴港開港記念博覧会(第二会場参考館)」

3. 図書のご紹介：「発掘 the OSAKA」 & 「タイル建築探訪」（酒井一光著、青幻舎刊）

酒井一光氏は、大阪歴史博物館（大阪市）の学芸員として長く調査・研究をした人ですが、惜しくも2018年逝去されました。両冊は酒井氏が二つの雑誌に連載されたものをまとめたものです。「発掘 the OSAKA」（303頁）は、大阪市内の著名な建築だけでなく、独自目線で「発掘」した住宅や銭湯なども収録した街歩きに活用したい1冊です。また「タイル建築探訪」（359頁）は、関西圏に限らず全国に及ぶ明治期から現代にいたるタイルや煉瓦を使用した建築の美を紹介する1冊です。各3000円（税別）。市図書館で借出し可能です。なお酒井氏の論考文を集めた「建築学芸員のまなざし」（酒井一光著、青幻舎刊、447頁）も同図書館に入りましたので併せてご覧ください。



4・まいづる海軍がっこうぐらし！ 第4回

大橋 健二（理事）

○連載第4回は機関学校生徒たちの休日ー

日々、分刻みの時間に縛られる生徒たちを癒してくれる休日。彼らは市内に出歩き、日々のストレスを発散させますが休日の市内は軍人だらけ。機関学校生徒の名前と制服を着用した彼らは気が抜けません。ですが、彼らが唯一ボタンを緩めることができる場所がありました。それは市内の一般家庭に設けられた生徒たちのための休養所「倶楽部」でした。倶楽部はまさに極楽。雑魚寝に囲碁将棋。軽食に話題の雑誌。故郷を離れ、機関科士官を目指す彼らが実家のように羽を伸ばすことができる場所。そしてここで養った英気をもとに、また東門をくぐるのでした。



編集後記

きたる12月20日に小浜線開通120年を迎えますが、当時の開通記念絵はがきでは「裏日本鉄道全通」という表現です。日本海側を貫くロジスティクスという意識を感じます。大陸との関係を意識した国防的な視点もあったのでしょう。JR西日本は小浜線を、経営上問題があるとして存廃を検討しているようですが、舞鶴にとっては福井県以北の日本海側全域につながる鉄路ですので、沿線の皆様のご尽力で今後とも何とか存続してほしいものです。

本会の目的（要旨）：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援など。

会員の資格：会費納入者 年会費（個人1,000円、団体5,000円）。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先：①ゆうちょ銀行 四四八店（ヨンヨンハチ店）普通 3679505 口座名義 アカレンガクラブマイツル

又は ②京都北都信用金庫 舞鶴中央支店 普通 口座番号0686767 口座名義 アカレンガクラブマイツル